

②「自分らしく生きる」ことを支える権利擁護を基盤として

福祉の支援のなかで地域福祉が重視されるようになってきたのは、一人ひとりが「自分らしく生きる」ためには、地域とのつながりをもって暮らし続けることが重要であり、それを実現するには、公的なサービスだけでなく、地域のさまざまな力をつないでいくことが不可欠だからです。介護や支援などが必要なときも自分らしく生きることを支援するという権利擁護^{*}の視点を基盤として、すべての取り組みを進めていきます。

③地域における人々のつながりの強化を

単身世帯の増加や、地縁関係の希薄化により、地域における人々のつながりが弱くなっています。とくに一人暮らしの高齢者は著しく増加しており、地域内での見守りなどの取り組みは、今後ますます大切なものとなっていきます。

また、災害時や緊急時にいかに的確に対応し、その人を守ることができるかが大きな課題のひとつになっています。各地で発生した災害の経験を踏まえて、そうしたときに的確な支援を行えるよう、日常からのつながりと支え合いのしくみを築き、災害や緊急事態が発生した場合に、どのような支え合いが必要であるかを想定しておくことが重要です。

④地域の課題の解決はできるだけ市民の身近なところで

自らの地域のことは地域の担い手が決めるという基本的な考え方のもと、生活のなかの課題は、できるだけ「市民の身近なところ」で解決する方が、迅速に、きめ細かい対応もでき、効率的です。地域には専門的な対応ができるさまざまな資源があります。これらをうまくつなぐことができれば、その多くは地域で解決できるはずです。そのためのネットワークが「福祉コミュニティ^{*}」です。各小学校区において、地域住民による自律的、持続的な地域運営の実現に向けて、地域団体や学校、事業所などさまざまな活動主体が幅広く参画し、地域特性に応じた課題の解決に協働して取り組むことを目的とした「地域活動協議会^{*}」が区内各小学校下で形成されています。地域福祉の視点で、さまざまな支援をできる人々が集まり、地域の課題を共有し、地域にあった手法で主体的に問題解決ができるよう支援していきます。

⑤暮らしを支えるサービスや活動が総合的に進められるように

制度に基づいて提供されているさまざまなサービスを、市民などの活動も交えてつなぎ、さらに必要なものは新たに開発しながら、生活全体をみて総合的に支えていくことが地域福祉の一つの役割です。そのためには、各々の

専門分野において支援を行っている事業者や行政機関、地域でさまざまな活動を行っている市民や団体などがお互いの取り組みの内容を知り、できることを少しずつ広げることで総合的な支援ができるしくみを作っていけるよう意識して取り組んでいきます。

⑥ビジネス的手法の導入

現在、地域でさまざまな地域福祉活動がボランティアの手によって担われています。お互いを支えあう気持ちを、ボランティアとして活動に主体的に参加することで表すことはもちろん大切です。今後、さらにビジネス的な手法を導入し、事業の透明性と経営感覚を取り入れた活動を行うことによって、これまで地域活動に積極的に関わってこなかった方々も含めて、新たな担い手の拡大につなげることができるとともに、活動の自律性を高めて持続可能な活動とし、地域の実情に合った幅広い事業を展開することも可能となります。

⑦担い手の役割と強みを活かした「協働」を

「協働※」は、目的を共有し、各々ができることに取り組みながら協力することで、より効果的に目的を達成しようという考え方です。多様な協働（マルチパートナーシップ※）によって地域の力を強化し、新しい形の公共づくりを進めていくことが地域福祉を進める上での大きなポイントです。

まず、市民の一人ひとりが、地域福祉は生活のさまざまな場面に関わりのあるものだということを理解し、まちづくりや生涯学習、地域防災の活動等にも福祉の視点を持って主体的に参画することが重要です。また、これまで地域の活動や福祉に関わりが少なかった人も、ご近所の高齢者への声掛けなど負担にならない範囲で、できることから参加することができます。

また、地域活動協議会等の身近な地域で活動する団体や、住民の生活を支える商店街などは、日常の暮らしに「近いところ」で、身近さを活かし、日常的な見守りや声かけを通じたつながりづくり、お互いに支えあう関係づくりを進めて、万一の災害時などにも助けあえる地域づくりを進めることが重要です。

NPOやボランティアグループなどは、多様な課題の解決に向けて、各々の活動を推進するとともに、その活動分野における知識や経験など団体の持つ強みを活かして他の団体等と協働していくことで、より効果的な活動となるよう取り組む必要があります。

福祉サービスを提供する事業者は、福祉サービスに関わる事業者として地域福祉の土台を支え、専門性を活かして自主的な活動を展開するとともに連